

4. 講習会で最も興味深かった内容は？

森田先生の写真、図、グラフ等の読み方、省略の仕方。
行政書士・藤田さんのお話が興味深かった。

相手のことを一緒に考え、何を求めているのかを考えなければ、というところが難しい

代読・代筆とも日常行う業務の再確認ができてよかった。
藤野先生の話、森田先生の実演等、参考になった。
高橋館長の話も行政に関わる部分など、興味深かった。

代読の重要性の大切さが、よくわかった。
また、気軽に書けない「怖さ」が理解できた。

行政書士・藤野先生による代書実務の専門的な話。

代読技術で話されていた、朗読と代読の違いについて、読み方を含め学ぶことが多かった。

点訳をやっているのので、森田さんの写真、図、グラフの読み方は、とても参考になった。
言葉を端的に伝える難しさ、法律に基づく色々な義務・定義について。

アイマスクをつけての署名が、思ったより難しいことに気付かされた。

行政書士・藤野朋子さんの話。森田さんの写真、図、グラフの読み方。

藤野朋子さんの代筆に関する話が参考になった。ただ代読や代筆の技術を向上させるだけでなく、それにまつわるトラブルも考慮する必要があるという話は、ぜひ講演会で続けてほしい。

どの講座も参考になることばかりで、ありがとうございました。特に行政書士の方の話はよかったと思う。

代書実務と読み書き情報支援。

グラフを説明する。点字を覚えたいと思った。

講習会概要説明、NHK報道ニュースの講習会紹介。行政書士・藤野さんの話も聞いてよかった。

行政書士・藤野先生が急に視力を失った時に、自分の弱点をかえて強みにしようと思われた話に感動した。また、宿題に出た、図書館の貸出し数と利用者数の推移のデータが興味深かった。

9月7日の講義をされた藤野先生の話が勉強になった。代筆でも、してもよいもの、いけないものの説明を受け、一番大事なことはリスク管理をきちんとすることが重要なことがわかった。

読み方の練習。息継ぎ。

サインは必ず本人がするということ。

すべてよかったが、特に行政書士・藤野朋子さん、初日の森田直子さん。

利用者の話を聞いて、これから前進する気持ちになった。

1日目は欠席。「代書実務と読み書き情報支援」が興味深かった。

すべてについて、新鮮な気持ちで学ばせてもらった。

行政書士・藤野さんのはっきりと、自身の意思を持っておられるところがよかった。はっきりとしない方がよいことを、経験上かわからないが、教えてもらえ、興味が持てた。

「点字の基礎知識」と「演習Ⅱ～代筆の技術」。

代読・代筆を支援するには、支援員自身の読解力と相手方がどんな情報を希望しているか等の把握が重要である。(わかりやすく伝えるのに必要なこと)

藤野行政書士の話は、具体的事例があり、興味深かった。

「代書実務と読み書き情報支援」。

読書権という言葉は初耳だった。大活字普及会も初耳だった。

「代書実務と読み書き情報支援」の藤野さんの話。
島信一郎さんの話。

初めて点字を書いたが、講習はおもしろかった。実際にはなんと忍耐のいることだろうと思った。島理事長の話で、「普段からもっと自分にできることがあるのでは」と考えさせられた。最後にアイマスクをつけて歩いた時、いかにガイド役大事か、話しかけることが大切か身をもってわかった。

森田先生の講義は、わかりやすく楽しかった。参考になった。

「東日本大震災を振り返って」の「見る資料」の文章で表現されていないものを読む場合・方法などの説明内容と、「利用者のお話」の内容。

代筆の時の注意点について(行政書士の方の話)。

行政書士の先生の話。

法律があっても、支援事業をするかどうかは行政サイドの任意だということ。全国で初めてということ。

「代書実務と読み書き情報支援」。法律上のスキルの話は知識としてためになった。

全体を通して、視力障害者の方への情報を伝えることの大切さ、深さなど。改めて痛感した。

行政書士の藤野さんの話は、世の中密着型で参考になった。

どれも興味深い内容だった。

写真・グラフの読み方。

5. 講習会の改善点は？

施設の案内(トイレの場所、喫煙所、ごみ箱の分別の協力など)を行うとよかった。反省点。

さらに幅広い分野の方々にも参加してもらえるよう、呼びかけをした方がよい。

特になし。

様々な立場の方々からの話は、とてもよかった。

特になし。

ポスター、昼食について。

もう少し長くても(点字)よいと思う。2日間びっしり。

言葉の意味がわからないものがあった。例→デージー図書。自分にとっては、初耳で意味がわからなかった。後で調べたが。

講師の方の話が、とてもわかりやすく感心した。

特になし。

もっと講演が多い方がいいと感じた。

同じ2日間でも、終了時間が少し遅い(17時は)。1日目は、午前中から始めてほしい。16時終了がよい。

マイクの使い方の工夫(マイクを通さない方が聞きやすい講師もいるので)。

代読の例を、もう少し多く出して読ませてほしかった。例→料理レシピ、死亡広告等。

準備がよかったので、タイムロスが少なく、順調でよかった。

講義の間に休憩があって助かった。金曜日の午後から土曜日という日程も参加しやすかった。

代筆・代読の最終コンプライアンスのテストも必要かと思う。

6. 支援員に対するご意見、ご要望

簡単なようで難しい仕事だと思った。

利用者さんとコミュニケーションを取る大切さ、再発見した。

休み時間など、質問や意欲的な声など多くいただくことができた。

支援員という立場であれば、今まで遠慮がちだった人たちにも気軽さが出てくると思う。自分も支援員という立場で、ボランティアより、少し深く踏み込めるかと思う。

支援員の制度があることを、支援する方、される方、とにかく一人でも多くの方々に知らせたい。

代読・代筆については知らないことが多々あった。今回の内容をもっと多くの人に知ってもらいたいので、今後も講習会を続けてほしい。

主催者、代読・代筆をされている方、利用されている方、色々な方面の方々の話を聞くことができ、勉強になった。

代読はどうか、と思うが、代筆は一寸気おくれし、とても重いものを感じる。

興味深く講習を受けることができた。将来、何らかの形で、関わっていきたいと思った。

支援員として活動したい希望はあるが、プライバシーに関わる自信がない。どれも守秘義務はあり、程度問題で線引きできるか不明だが、支援員のレベル設定の計画は？

自分の生活にも役立つことばかりだった。代わりに読む・書くことを簡単に引き受けられないと感じた。支援員ともなると、技術や知識、人間性も問われ、責任重大であること。自分の書いたもので、生活者の生活スタイルが変わるかもしれない恐ろしさを感じた。よい勉強になった。

代読・代筆の重要性を知り、さらに広めたいと思った。

責任を持って、やっていきたい。

代筆支援に関しては非常に難しいと感じた。まずは講座の開催かと。微力だが、行政への働きかけの方法を考えたい。

このような講習会があったら、また参加したい。

安全に情報を提供するためには、常に「わかりやすく伝えるには」等、知識技能の習得が重要であると勉強させてもらった。

中身の濃い講習会だった。代読・代筆を実践する場があることを望む。

なかなか、難しい仕事だと思った。

今回初めての体験だったが、色々なこと経験できた。

実際に、代読・代筆をされている方の実際や方法などの話も聞きたかった。守秘義務の責任の取り方など。

情報支援員同士、情報共有する部分はあるか。月に何人くらいの依頼があるか。

仕事を持っていても、情報支援のできる方法を教えてほしい。

具体的な事例が多くてよかった。

7. 質問内容

代筆の場面で、代筆が可能か不可能かの判断を迷った時に、相談する窓口があるといいが、どこに聞くとよいのか。

これらの講習会を受けない場合でも、個人で代読・代筆を行ってよいのか。

今後も様々な研修会があるのか。

特になし。

向き不向きはあるのか。自分はおしゃべりな方だからダメかなと思う。

概論だけでなく、実習の講習会を催してほしい。

けっこう奥が深いのではないかと思う。